

外国人材受入れ事例

株式会社大勝建設
所在地：宇都宮市
従業員数：29名

とちぎ外国人材活用促進協議会

外国人の受入状況 2020年11月現在

○ 技能実習生のベトナム人7名を受入れ中 (2013年から受入れ開始)



外国人受入れの目的・理由

- ・新卒で毎年3～4名程度は採用したいが、現状は年1～2名程度で推移している。若い人材が少ないということは、部下に仕事を教える機会が減少することを意味し、引いてはそれが、会社の衰退につながるため、外国人の採用に至った。

外国人の採用方法

- ・日本人の技術者が教鞭をとる現地の学校に出向き面接を行った。現地での面接にこだわる理由としては、素直さ・やる気を始め、日本で働くことについての意気込みを見定めるためである。

受入企業の声

- ・採用活動時のポイントとしては、学校に入学して間もない人材と面接して内定を出すことである。その方が、本人の働く先が見えて、必死に勉強を頑張ってくれるからである。
- ・評価は、日本人従業員と同一条件で行っているが、技能実習生は他の従業員と比べても抜群に働き者であり、会社にとって無くてはならない存在となっている。
- ・職人肌の先輩が仕事を教えることもあり、言葉が通じないことで、互いにストレスを感じることも過去にはあったが、現在はゆっくり話すことで解決している。



受入れや定着を進めるにあたっての工夫

- ・現場での事故を回避するため、「ひとりK・Y手帳（危険予知手帳）」を毎朝書かせるようにしている。作業前に上長から作業指示を受け、その作業の中に潜む危険について、自分なりに日本語で記載することで、事故防止につながっている。
- ・月1回社員で集まり、仕事のことにについてざっくばらんに話す機会を設けている。これが、現場に出たときのコミュニケーションにもつながっている。また、実技試験の練習環境を社内に設けているため、雨天の日などは日本人社員とともに練習を行っている。
- ・近況報告のため、日本のお土産を持って、ベトナムの家族を訪問するようにしている。
- ・技能実習生は入国後、研修施設で約1か月間勉強するが、それとは別に、現場に出す前に1か月間自社で日本語と実技の勉強をさせている。そのため、会社における教育体制等も充実させており、また、日本語の教材が欲しいという外国人に対しては、買い与えている。

外国人本人の声

- ・ベトナムでの就職が困難であったため、来日を決めた。
- ・技能実習3号のため5年目を修了した後は、一度ベトナムに帰国したいが、可能であれば再度ここで働きたいと考えている。また、制度上難しいとは思いますが、妻と子供と一緒に日本で暮らしたいとも考えている。
- ・仕事が終わってから毎日2時間程度、漢字と鳶の勉強をするとともに、仕事中は、日本語で会話するよう意識している。

